

祭壇に献花を行う参列者たち



戦後67年目、平和への誓い新たに

◎鬼北町戦没者追悼式

3年に一度開かれる「鬼北町戦没者追悼式」は10月4日、広見体育センターで開催されました。

まず参列者全員が684柱の御霊に黙とうを捧げ、その後、鬼北町遺族会会長の渡辺光久さんが「悲しみの歴史を繰り返さず、恒久の平和への決意を新たにしなければならぬ」と追悼の言葉を述べられました。

その後、遺族や関係者らが祭壇へ献花を行い、中にはかつての思い出が込み上げたような面持ちでじっと祭壇を見つめる人もおり、一人ひとりが戦争の犠牲となった故人を偲びました。

打つか打ちとるか緊張の瞬間



年齢を感じさせない白熱プレー

◎実年ソフトボール大会

10月3日、鬼北総合公園グラウンドにおいて、実年ソフトボール大会の開会式が行われました。

実年ソフトボール大会とは、50歳以上の方を対象としたソフトボール大会で、60歳を境にホームランの境界線を変更するなど、一般のソフトボールに独特のルールを加えて行われます。

この日は甲岡町長の始球式の後、開幕試合となる近永A対泉・三島の試合が行われ、この大会では、選手は全員参加ということもあり、真剣勝負の中にも笑いこぼれる試合となりました。

慎重にクロケットの玉を打つ出場者



秋晴れの中、勝利に向けて真剣勝負

◎鬼北スポレク祭2012

10月7日、鬼北総合公園体育館やグラウンドなどを会場に、鬼北スポレク祭2012が開催されました。

この日は、ソフトテニス、クロケットやペタンクなど全9種目の試合が行われ、各種目に出場した選手たちは日頃の練習の成果を発揮しようと、試合に臨む表情は真剣そのもの。

しかし、真剣勝負の中にも時折笑顔がこぼれる場面も見られ、スポーツを楽しむ者同士、一つひとつのプレーを通じて交流を深めていました。

メインに飾られた合作作品



華やかさの中にも凛とした美しさ

◎鬼北生花展

鬼北生花展は10月6日と7日の2日間、広見体育センターで開催されました。

今年も、小原流、池坊、草月流、嵯峨御流、未生流といった異なる流派の生花が一堂に介し、会場内を鮮やかに彩りました。繊細なものや躍動感溢れるものなど、それぞれの個性が光る生花。その優雅で華やかな佇まいに、訪れた人たちは目を輝かせながら見入っていました。

また、7日には会場内でお茶会も催され、来場者たちは日本古来の文化である生花と茶道の共演を楽しみました。